

一

問一 a || ベンギ b || チケン c || 生涯 d || 醜

e || イロリ f || カイ g || 焦 h || 膨大（厩大・尫大）

問二 A || キ B || ア C || イ D || オ

問三 自分の外部に意味のあるものが得られないというむなしさ。
（二七字）

自分の内部に価値や意味がないと感じられてしまうむなしさ。
（二八字）

問四 自分の外部の物や人を失ったむなしさは、失った物や人の一体感や依存心が強い場合には自分自身への深い衝撃となつてのしかかり、自分が無になってしまったようなむなしさ
を呼び起こす。（八七字）

問五 言葉は自己に根ざし他者との関係を築くため、言葉が伝わらずに関係が築けない外的なむなしさが、自分を無価値と感じる内的なむなしさを導くから。（六八字）

問六 相手からの反応を得られない「むなしさ」を回避しようとして単なる刺激としての無意味な言葉を連発し、表面的には充実感を得られても、意味のあるやり取りができていない本質的な「むなしさ」に陥ってしまう状況。（九九字）

問七 ア・ウ・エ

問一 「当たる」はラ行四段活用動詞「当たる」の終止形、「べき」は当然の助動詞「べし」の連体形、「に」は断定の助動詞「なり」の連用形、「や」は疑問の係助詞、「あら」はラ行変格活用動詞「あり」の未然形、「む」は推量の助動詞「む」の連体形。

問二 (ア) 具行は平静を装って、自身の処罰についても思いつめていない様子である

(イ) 臨終の際に雑念を抱くことさえなければ、清らかな極楽浄土にも行けよう

(ウ) 自分が具行の出家を認めた旨が鎌倉幕府に伝わった際にどう取り沙汰されるだろうと思いますが、大した問題はないでしょう

問三 長生きしたところで、捕虜の我が身はむなしく死に果てるだろうが、どこに置くかもわからぬ初霜のように、わが身の置きどころもない現世でまだ過ごしているよ。

問四 死に臨んでもなお、幕府の末路を見届けたいと、幕府への敵愾心が残っている点。

問五 (a) 〓 栄花物語 (b) 〓 大鏡 (c) 〓 水鏡

三

問一 a || いへども（いえども）

b || すなはち（すなわち）

c || あへて（あえて）

問二 昔の優れた製造元の製法に倣って磁器を生産し、その中でも良質のものを選んで地中に埋めて二年後に掘り出すことで骨董品に見せかけ、貴人の家々に売り歩いて多額の利益を得た。

問三 以て真と為さざるは莫きなり

問四 たばこを普段から他店よりも高額で売り、品切れの際は他店からたばこを購入して自分の店の刻印を施してから高額で売った。

問五 世人が尊重するものは表面的な名前だけである。その物の真の価値を理解できている者がいるわけではないのだ。

問六 本当に聖人の文章が高邁で素晴らしいということを理解できると、自然と偽物が本物を阻害することはできなくなる。

問七 世人は物の本質を見極められず、その権威に惑わされる。それは学者も同様で、儒教の経典と聞くと、その中身を議論することもなく、それが聖人の言葉だと決めつけて軽々しく尊んでしまう。そうした姿勢を改め、ひたすらに聖人の真意を追究するべきだ。聖人の文章の真の素晴らしさを理解すれば、偽物に惑わされることはない。（二五〇字）